



# Rotary Weekly



## 広島空港ロータリークラブ週報

2020年3月11日発行

2019-20年度  
国際ロータリーテーマ

会長 佐々木正親 / 副会長 熊谷祐司 / 幹事 川本吉則 / SAA 伊藤佳子  
事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階  
TEL 0848-86-0986・FAX 0848-86-0992・E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp  
例会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

3月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31  
休会 例会中止 例会中止 IM中止 休会

3月例会は、新型コロナウイルスの感染拡大が続いている情勢に鑑み休会とする

【定款第7条第1節(d)(3)全地域社会にわたる流行病もしくは災害が発生した場合】

### 第1179回 2020年2月26日 例会記録

点 鐘 佐々木会長  
ロータリーソング「それでこそロータリー」  
ロータリアンの行動規範唱和

#### 出席報告

	会員数 名譽会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (2/26)	29 1	17 1	2	7 3	73.08
メイク	灰谷・鶴田秀樹				
前々回 (2/5)	29 1	12	7	5 5	79.17
メイク	灰谷・鶴田幸彦・橋濱・伊藤佳子・重森 楠部・乗越・				

#### 食事時間

おしながき  
胡麻豆腐 美味出汁  
鯛のお造り  
鱈の幽庵焼き 豆菰  
豚角煮と野菜の煮物  
白ごはん・赤だし  
香の物  
苺のムース



#### 会長時間



今日の卓話時間は森崎さんのお話で非常に楽しみにしています。以前ロータリークラブとライオンズクラブの違いという事を聞かれたことがあり、昨日調べました。個人の意見も入っていると思いますが…。ちなみに、私はライオンズクラブさんから誘われた

ことは1度もありませんので比較をしてこのクラブに入った訳ではありません。書かれてあるものを見ると、『両者の違いは、実務面では殆ど相違がありません。しかしあえて言えば、ロータリークラブは、1905年アメリカのシカゴでポール・ハリスによって設立された職業倫理の高揚を学び一人一人の職業を通じて社会に如何に奉仕するかと言う職業奉仕を重点に、I Serve (私は奉仕する) を理念とした団体です。これに対して、ライオンズクラブは1917年アメリカのダラスで元ロータリークラブ会員だったメルビン・ジョーンズの提唱により誕生した社会奉仕を重点に、We Serve (我々は奉仕する) を理念とした団体です。しかし、ロータリークラブの活動でも、We Serve の活動は多く見られます。また、ロータリークラブは週1回の例会開催に対し、ライオンズクラブは月2回の例会開催となります。』我がクラブを考えると、例会は原則月3回にしましたし、あれはダメこれはダメというものもなく、私見として間をとった非常に良い感じのクラブだと感じています。LCとRCの良いところ取りをした広島空港RCの会員が、もっと増えればと思います。

## 幹事報告

《配布物》週報1178号（2月定例理事会報告）

《回覧》出欠表

広島空港RC親睦ゴルフコンペ 4/12

4クラブ親睦ゴルフコンペ 5/24

沼田川クリーンキャンペーン

職場体験学習受入確認

## 卓話時間

森崎 正治 会員

「私とロータリー」



皆さん今日は。これより私 森崎正治が卓話をさせていただきます。前半は私とロータリーとの関わりについて、後半はロータリーについての勉強時間とします。

### 卓話について

卓話には、外部の人に話をしてもらおう外部卓話と、会員が話をする会員卓話があります。外部卓話は外の世界の興味あるお話が聞けて良いのですが、卓話をしてもらう人を探するのが大変です。最近、我がクラブでも会員卓話が多くなっております。

クラブが出来た当初は、プログラム委員会が卓話のスケジュールを決めていました。特にプログラム委員長への負担は重いものでした。1年目のプログラム委員長は村上正志さんと言う方です。この方は人脈も多く、常に数か月前に外部卓話者の手配を済ましておられました。私は2年目のプログラム委員長になりました。1年目は外部卓話が多かったものですから、自分も外部卓話を多くしようと意気込んだのですが、スケジュールを埋めるのは大変でした。色んな伝手を頼って卓話の依頼をしましたが、なかなか承諾をもらえず、もうプログラム委員長はお断りと思ったほど苦労しました。そこで今日は、最初から外部卓話をあきらめ、会員卓話をさせていただきます。

### 自己紹介

これより、私について少し紹介させていただきます。私は昭和25年5月生まれで、現在満69才、今年の誕生日で満70歳、古希になります。まだまだ元気なのは有難いなあと感謝しております。

私が生まれ育ったのは賀茂郡大和町上徳良（今は三原市大和町上徳良）と言う所です。

ここから山を二つ三つ越えたところにある田舎で、あの鯉で有名な阪井養魚場のある近所です。その小学校に6年生まで通いました。家はもともと農家でしたが、私の生まれた頃は、菜種油の製造を始めておりましたが、当時の品質はそんなに良くなかったと思いますが、物のない時代で、作れば売れると言った時代だったとのことです。

私が小学6年になった時、担任の先生から、私に広島の中学校を受験させてはという話が来ました。今思えば無謀な話ですが、何とか修道中学に受かったので、広島に出て下宿しながら修道中学・修道高校へと通いました。大学は、東京への憧れから、東京の大学へ行きました。卒業後は東京で就職とも考えましたが、長男として家業を継ぐのなら広島で就職しようと決め、広島市にある会社に就職しました。そして、就職して2年後には、親父が経営する会社に入っております。その時はすでに、会社は大和町から本郷町に移転しており、そこで25年ほど製油業をしてきました。

### 私とロータリー

私とロータリーとの関わりは実は、先ほど述べた修道高校時代から始まっております。と言うのは、高校1年の頃から、修道高校のインターアクトの部室に、親友に引っ張られるように入り込んでいたからです。その親友は、何か行事があると私を部室に連れて行きました。そして、いつのまにかクラブ員に登録されてしまいました。

インターアクトでの思い出と言えば、広島沖合の似島にある似島学園という養護施設を慰問したことや、クラブの例会に出ると広島南ロータリークラブの方が出席されていたことなどがあります。熱心なインターアクトクラブ員ではありませんでしたが、ともかく高校時代からロータリーと関わりを持っていたのです。

ロータリークラブを新しく作るが入会しないかと誘いを受けた時、すぐに承諾しました。高校時代から、ロータリーへのあこがれを持っていたからです。当時、本郷にはライオンズクラブがありました。ライオンズへのイメージから、ロータリークラブも寄付を沢山するとか、植木やゴミ拾いをする団体と思っておりました。ところがロータリーでは、あまり寄付の強制もないし、肉体労働が必要なボランティア活動もそんなに多くありません。ロータリーは、ライオンズと違って個人による奉仕を重視しており、派手な寄付行為はしないというのは、後にわかりました。

私は2004年に当クラブの会長をさせていただきます。その頃は、クラブ歴10年でありましたが、た

だ会長の役目を果たすことに懸命でありました。会長時代の思い出のひとつは、松本であった空港フォーラムに夫婦で参加し、上高地を案内してもらったことです。そして、わがクラブに野球同好会が出来、市民球場で野球ができたことも感動した経験です。

苦勞した思い出と言えば、例会での会長時間に何を話そうかと、毎回前日から原稿作りに頭を悩ましたことです。何とか会長を終えた時、これからは楽をしてゆったりとロータリーを楽しめると思っていました。

会長を辞めてちょうど10年目の2014年に、今度はガバナー補佐になれということになりました。誰か他の人になってもらうようにといろいろと画策しましたが、最後は引き受けざるを得なくなりました。ガバナー補佐はどんなことをすればよいのか迷いました。過去のロータリー週報にガバナー補佐の先輩方の記録が詳しく載せてありましたので、それを参考にさせてもらいました。

ガバナー補佐は各クラブにこのようにしろとか指導する人ではありません。各クラブの良い点や問題点を聴取し、ガバナーにお伝えする役だと割り切ると気分的に楽だと思えます。次は澤井さんです。澤井さんなら、大丈夫と思えますので期待しております。

### 奉仕の理想

これより、ロータリーについての勉強時間です。まずは私たちが良く歌っている「奉仕の理想」(The ideal of service)についてです。

「奉仕の理想」をうまく説明できる人は少ないようです。idealの訳を「理想」よりも「理念」と訳した方が分かり易いという方もおられますが、「奉仕の理念」であると言われてもまだ難解です。

「奉仕の理想」はわかりやすく言えば、「人に対する思いやりを持って、人のお役に立つこと」ということです。

### ロータリーのモットー

ロータリーのモットーは、二つあり、「超我の奉仕」(Service Above Self)と「最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる」(One Profits Most Who Serves Best)であります。

「超我の奉仕」とは自分のためだけでなく、他者のために役立つことをしていくことでもあります。利己を超越して人のために奉仕を実践していくことです。自分さえ良ければそれで良いと考えるのではなく、人の役にたつことを考え行動していくことが大事なのです。

「最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる」は、人のために良く尽くしたものが、結局大きな成功を得られる、または大きな恩恵に預かれるということでもあります。これは、シェルドンという方が、自ら運営するビジネス・スクールで言っておられたことを、ロータリーでも広められたので、ロータリーのモットーとなったようです。

ビジネスで大きな成果をあげられた方々は、人の役に立つことも沢山されているというビジネス・スクールでの経験から、このことを言われたようです。

### ロータリーの五大奉仕

皆さんはロータリーの五大奉仕というのをご存知でしょうか。クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の五つです。

クラブ奉仕は(クラブにおいて)クラブのため奉仕すること、社会奉仕は(地域において)地域社会のため奉仕すること、国際奉仕は国際社会のため奉仕すること、青少年奉仕は青少年のため奉仕することと理解すれば、正しい理解ではないにしても何となくわかる気がします。

ところが、職業奉仕は(職場において)職業のため奉仕すると理解するには、無理を感じます。正しくは、職業奉仕は職業を通して社会に奉仕するという意味です。この世の中、色んな職業の方が助け合って成り立っています。倫理観を持って職業を営んでいれば、どなたでも職業奉仕をすることができます。

ただ、社会奉仕も職業奉仕も結局社会に奉仕するのなら、同じではと疑問がわきます。ところが、ロータリーでは、お医者さんが無報酬で患者に医療行為をすれば、それは社会奉仕になるのです。適正な報酬で医療行為をすればそれは職業奉仕になるのです。

ロータリーでは、社会奉仕の受益者は他者であり、職業奉仕の受益者はロータリアンだと考えます。ロータリアンが高い倫理観を持って職業を営んでいれば、それはお客さんのためになり、社会に奉仕していることとなります。やがてそのサービスを受けた客がリピート客となります。リピート客が増えて、その職業は繁栄し、結局そのロータリアンは恩恵を受けることになるのです。

だから、「最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる」と言えるのです。

以上で、私の卓話を終わります。最後までお付き合いありがとうございました。